

埼玉県立久喜図書館
子ども読書支援
ボランティア
おすすめ!!

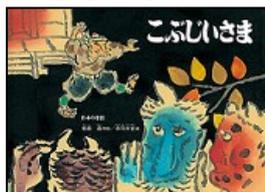
どう歌えはいいの？

歌がでてくるおはなし

「絵本の中の歌は、立派なメロディーをつけなくてもいいし、もちろん、無理に歌わなくてもいいのです。」（ボランティアより）
でも、歌が物語を魅力的に印象付けるのも、事実です。
読み聞かせの「歌」について、すこし考えてみませんか？

低学年から

こぶじいさま

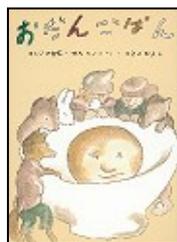


松居直／再話
赤羽末吉／画
福音館書店（6分）

『こぶとりじいさん』などの題で長く親しまれてきた、有名な昔話。鬼たちの歌や踊りをたのしく盛り上げたじいさまは、こぶを取ってもらい喜びますが、話をきいて、まねしに出かけたとなりのじいさまは……。

♪鬼たちやじいさまが歌い踊る場面は、練習する際、手足を使って踊りながら歌ったり、「くるみは ぱっぱ、ぱあくづく（あ、こりゃ） おさなぎ、やあつの、おっかあかあ（はっ）」など、合いの手を入れてみたりすると感じがつかめるかも。おそろしいけどどこかユーモラスな鬼たち、軽やかでノリのいいじいさま、それを真似しようと、焦るばかりのとなりのじいさま、三者三様のイメージを歌にこめてみて。

おだんごぱん



せたていじ／訳
わきたかず／え
福音館書店（6分）

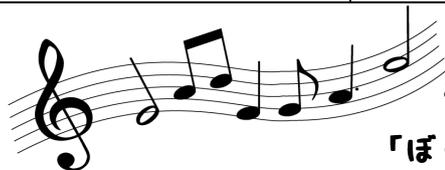
おじいさんのために、おばあさんが作ったおだんごぱん。ところができあがったとたん、おだんごぱんは、外へころころ転がりだして……。次々に出会う動物たちとのやりとりが、たのしい昔話です。

♪転がり、歌い、逃げる、そのくり返しだけのシンプルな話なのに、子どもはそのくり返しをととても喜び、歌をすぐに覚えてしまうことも。おだんごぱんの歌をリズムカルに唱えるだけでも、十分に楽しめますが、各歌に共通の最初と最後の部分だけでも、元気なメロディーをつけると、さらに楽しくなるでしょう。

こんな歌はいかが？ ♪ラララ ララソソ ソソシシド！

「ぼくは てんかの おだんごぱん！」

「おまえ なんかに つかまるかい！」



こんなことがあったよ！ボランティアエピソード

「ぼく、あの歌、けっこう好きだよ！」

息子が小学生だった頃、せがまれて毎晩絵本を読んでいた時期がありました。ある時、忙しくてどうしても夜の時間がとれず、以前テープに吹き込んでおいた「チム・ラビットのぼうけん」（歌が出てくるお話）を聞かせました。

しばらくたったころ、息子がふと「ぼく、あの歌、けっこう好きだよ！」と言ったのです。「え？歌？どんな歌だっけ？」と確認してみても、びっくり。とても歌と呼べるものじゃない！それでも、息子が歌を楽しんでいると思って聞いてくれたことに心打たれました。

以来、絵本の中の歌は、できるだけその物語に合いそうなメロディーを自分なりに考えて、歌うように心がけています。



こんなことがあったよ！ボランティアエピソード

ぐりとぐらの歌について
もっと知りたい方はコチラ！

「みんな違って、それぞれいい」

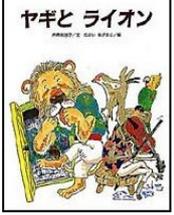
『母の友』（2000年12月号）で、「ぐりとぐら」の歌について調査したところ、100通超の歌の楽譜が届きました。多少似ているものもありましたが、同じものは一つもなかったとか。作者の中川李枝子さんは「みんな違って、それぞれいい」とおっしゃっています。「ぐりとぐら」の歌はそれぞれ家庭の味（歌）になっているんだなあ……。



『ぼくらのなまえはぐりとぐら』
福音館書店母の友編集部／編 福音館書店

中学年から

<p>ランパンパン</p>  <p>マギー・ダフ／再話 山口文生／訳 評論社（7分）</p>	<p>『ランパンパン』とは太鼓の音です。主人公のクロドリはこの太鼓をたたきながら、妻をさらっていった、につくき王様のところへ行進していきます。道中いろいろな仲間が加わって…。インドの民話を基にした物語です。</p> <p>♪作品中に登場するかけ言葉のようなやり取りや、クロドリが王様に対抗するため、耳の中に入れてきた仲間たちを呼び出すときなど、「ランパンパン」という太鼓の音に合わせ、節をつけて元気よくリズムカルに読むと楽しさ倍増です。</p>
--	--

<p>ヤギとライオン</p>  <p>内田莉沙子／文 むかいながまさ／絵 鈴木出版（7分）</p>	<p>トリニダード・トバコって、知っていますか？カリブ海の南アフリカ大陸寄りにある、小さな島国です。このお話はその国の民話です。</p> <p>雨の日に、ヤギが雨宿りした家はライオン一家の家でした。ヤギを食べたくてしようがないライオンと、食べられてたまるかと、知恵を絞るヤギとの壮絶なバトルが歌で描かれています。</p> <p>♪この歌に楽譜はついていませんが、聞きなじんだ歌からメロディーを借りるなどしてみてもよいのかも。（例：やぎの歌に「アルプス一万尺」のメロディー） 絵では、冷や汗をかきながら歌っていますが、あえてリズムよく歌うと、さらに楽しいお話になります。</p>
--	--

素話にも「やぎとライオン」があります！



『子どもに聞かせる世界の民話』
矢崎源九郎／編 実業之日本社



『おはなし会ガイドブック』
茨木啓子ほか／編・著 こぐま社

「やぎとライオン」の楽譜がのっています！
歌がおはなしの中で重要度が高い場合、
歌った方がおはなしの印象を強くするけど、
作品のイメージをこわさないように気を付けて！

高学年から

<p>きつねのホイティ</p>  <p>シビル・ウェットシンハ／さく 松岡享子／やく 福音館書店（11分）</p>	<p>スリランカの小さな村で、きつねのホイティはいつもおなかをすかせていました。そこで、村に住む3人のおかみさんたちから、食事をだましようと考えます。おかみさんたちは、人間になりすましたホイティをもてなしてやりますが、実は…。</p> <p>♪きつねのホイティやおかみさんたちが、相手をだました時に歌う場面では、絵の雰囲気にあわせて、はずむようなリズムで、「ホイティ トイティ ホイティティ！」と調子よく唱えらるとおはなしがイキイキします。</p>
---	--

<p>きつねにようぼう</p>  <p>長谷川摂子／再話 片山健／絵 福音館書店（10分）</p>	<p>びんぼうな男のもとに、いとしげな、わかい女が一晩の宿を求めてやってきました。やがて二人は夫婦になり、かわいい男の子にも恵まれます。けれども、実は女の正体はきつね。わが子に正体が知られてしまい、一緒に暮らせなくなった女は、家を去ります。きつねの切ない愛情あふれるおはなしです。</p> <p>♪「ほんに かわいや ててっこうじ」からはじまる、母がわが子に歌いかける場面では、読み手の口ずさみややすいリズムや音階で、子守唄のように優しい口調で読んでみては。一面に咲いた椿の絵が美しいので、読んでほしいです。</p>
---	--

編集発行 埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター
協力 子ども読書支援ボランティア
〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5 TEL 0480(21)2659



埼玉県のマスコット
マスコット